

【実践報告】

幼児教育の体験活動の報告

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 牧 亮 太
教授 上 村 加 奈

1 はじめに

本科目は幼稚園教諭・保育士を目指す学生が2年次に履修する科目であり、1年次後期「幼児の理解」での学びを基礎として、1年間を通して保育現場にかかわりながら、保育の実際を学ぶことをねらいとしている（幼児教育コースにおける本科目の位置づけはp.73の図1を参照）。全授業時間は90時間であり、その内訳は、事前・事後指導が30時間、体験活動が40時間、ボランティア体験が20時間である。本科目が開講されたのは2020年度であったが、過去2年間は新型コロナウイルスの影響もあり、内容を変更しながらの実施であったため、予定通りの内容・期間で授業を実施できたのは2022年度が初めてであった。なお、2022年度の履修者は45名であった。

2 スケジュールおよび概要

表1の通り、授業を実施した。5日間の体験活動では、日誌の作成、手あそび・絵本の読み聞かせをおこない、体験活動後にはエピソード記録を作成した。日誌の書き方に関しては1年次の「幼児の理解」で各自がまとめた記録に基づいて指導をおこなった。エピソード記録の作成は1年次からの継続的な取り組みであった。ボランティア体験については、事前指導を7月におこない、学生自身がボランティア先を探して、直接依頼することとした。時間数を把握するために、終了後には報告書を提出させた。

さらに、他校種理解を目的とし、前期末と後期末に幼小交流会をおこない、幼児教育と小学校教育の違いや共通点、保育者と小学校教員に求められる役割について、体験活動やボランティア体験での学びをもとに話し合った。

表1 2022年度の実施スケジュール

日にち	主な内容
4/13	ガイダンス
4/20	担当決め、事前訪問日程の調整
4/27	園の概要、準備物の確認
5/11	必要書類（日誌、略歴、出勤簿）の確認
5/18	体験活動の課題、事前訪問での確認事項
6/ 1	諸注意
6/ 6～10	体験活動（5日間）
6/13～17	
6/22	ふりかえり（エピソード記録）
6/29	ふりかえり（日誌）、お礼状の書き方
7/20	<u>幼小交流会①</u>
7/27	ボランティア体験について
10/ 5	ボランティア体験報告会①
12/ 7	ボランティア体験報告会②
1/18	<u>幼小交流会②</u>
2/ 8	まとめ

注：下線部は「学校教育（小）の体験活動」と合同実施

3 成果と課題

体験活動後のふりかえりから、5日間という短い期間にもかかわらず、子どもの成長や変化を感じ取ったり、保育者が子どもと関わる姿を観察し、見守ることの重要性に気づいたり、初めて子どもたちの前で手あそびや絵本の読み聞かせを実践することで、その楽しさを実感したり、日誌を書こうとしてもなかなか書き進めることができず、自分の文章力のなさに歯痒い思いをしたりといった学生の姿がうかがえた。保育職の魅力に触れつつも、自分自身の課題が明確になったことは、模擬保育や本実習を控えている2年生にとって、大きな意味があるものと思われる。一方、ボランティア体験について、実施時期に偏りがあったため、ボランティア体験報告会②の内容を一部変更せざるを得なかった。今後、報告会②のあり方を検討し、来年度のスケジュールを見直していく必要がある。